

4 観光

[1] 現状と課題

日本では、「観光立国推進基本法」を制定し、観光振興を重要な政策として位置付けています。この政策のもと、現在では全国的に、観光による地域の活力を増進させるための取り組みが行われ、観光のもつ魅力によって地域の価値を高めようとする機運が高まっています。

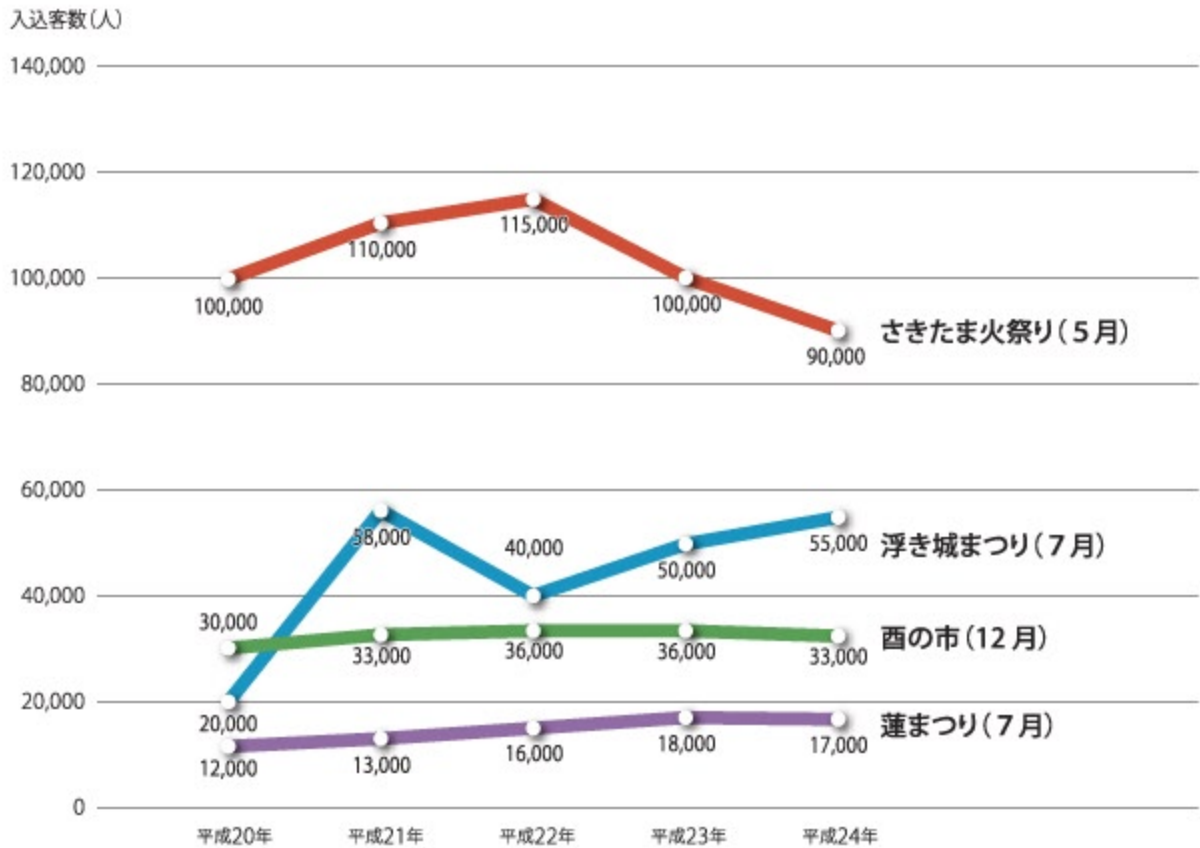
行田市には、埼玉古墳群、忍城址、水城公園、古代蓮の里、足袋蔵などの観光資源があり、平成21年には観光入込客数が100万人を突破しています。

このように、「古代」をテーマとした観光資源が市内に多数ありますが、これらの観光資源をいかに線としてみないでいくかが課題となり、観光資源間のネットワーク化によって観光資源間だけでなく中心市街地へも人が流れるように、回遊性を向上させる必要があります。更に本市では、観光資源を利用して毎年開催されるイベントがあり(図表16)、イベント入込客数も多いことから、観光資源とイベントとの連携によって、市外や県外からの入込客数を増加させ、観光のPRや記憶に残るような体験型観光など、新しい観光スタイルを模索していくことも必要です。

図表 16 行田市で毎年開催されるイベント

	<ul style="list-style-type: none"> ・桜ボンボリまつり ・春まつり ・さきたま火祭り ・鉄剣マラソン 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・行田蓮まつり ・行田浮き城まつり ・とうろう流し納涼大会 ・田んぼアート (11月まで) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市菊花展 ・行田市B級グルメ大会 ・商工祭・忍城時代まつり 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・酉の市 ・行田ゆく年くる年 	

図表 17 イベント入込客数の推移



資料：行田市

以上から観光について要点をまとめると、次のような課題が挙げられるといえます。

〈現状・課題の要点〉

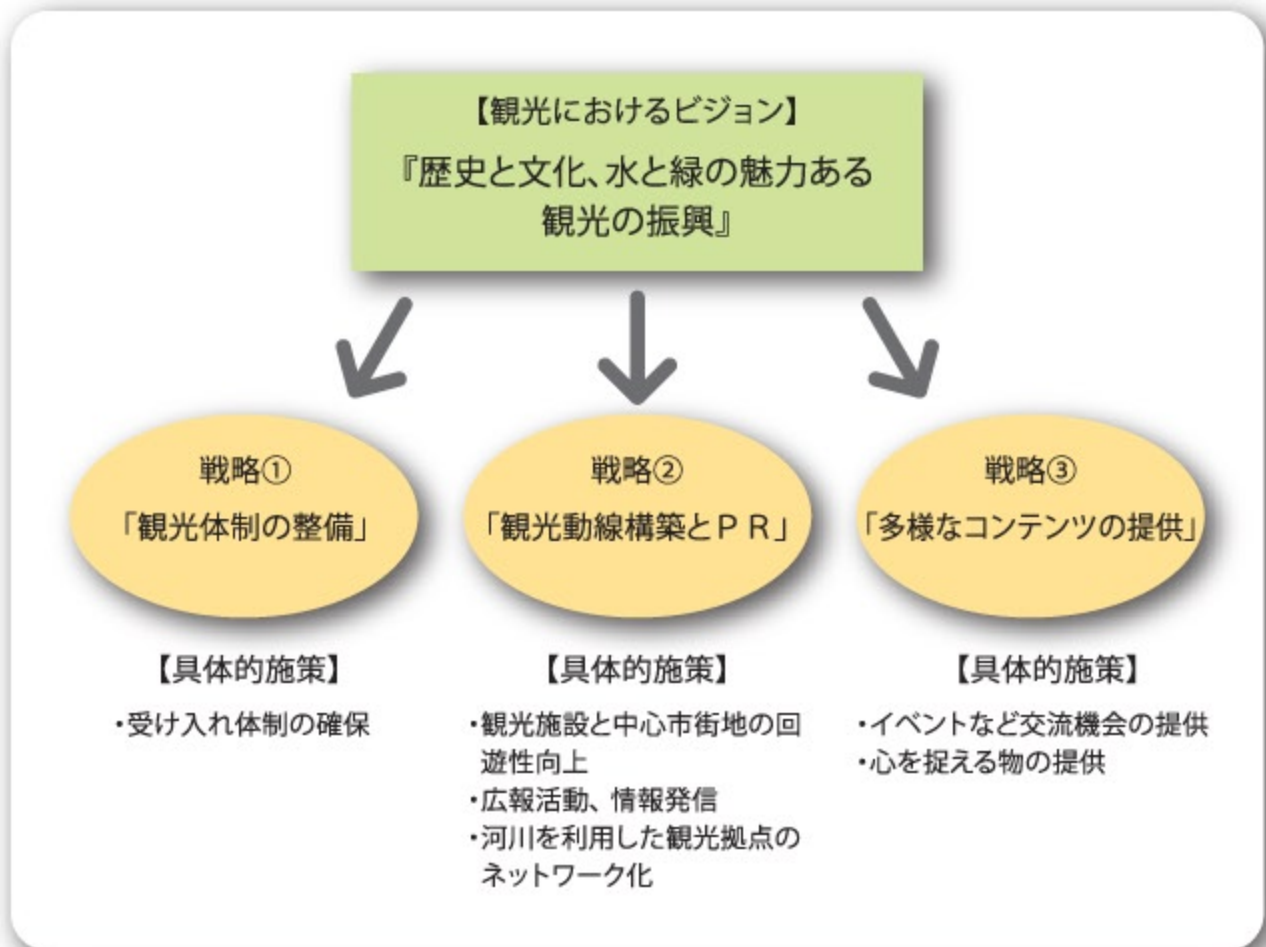
- 要点① 観光推進組織・運営体制を含めた観光基盤の整備
- 要点② 市内中心部と観光資源間の回遊性向上とネットワーク化

[2] 将来像

『歴史と文化、水と緑の魅力ある観光の振興』

観光事業を通して、市民、市を訪れる人々双方にとって、楽しみのある魅力的なまちをつくることで、市民は自分のまちに自信と誇りを持てるようになります。そこで行田市では、観光のビジョンとして『歴史と文化、水と緑の魅力ある観光の振興』を掲げ、3つの戦略を挙げます。戦略①として「観光体制の整備」、戦略②として「観光動線構築とPR」、戦略③として「多様なコンテンツの提供」です。

このような産業振興政策によって、観光資源をネットワークとして線で結び、豊かな観光資源を個性ある観光産業へと発展させることで、魅力溢れる観光の振興に資することを目指します。



戦略① 「観光体制の整備」

【具体的施策の展開】

ア 受け入れ体制の確保

観光をより魅力的な産業へと育てるためには、商店主や観光施設従事者が一体となり「おもてなしの心」をもって接する体制が必要となります。この「おもてなしの心」を醸成するためには、市民自らが、行田市の歴史・文化などの深い理解をもとに、地域を愛する心をもつことが必要となります。

そのために、地域資源を再評価し、新たな地域資源を発掘するなど、市民自身が行田市の文化的・歴史的価値を再認識する機会の提供を行い、我がまち「行田」の歴史・文化に対する知識の醸成に努めます。

また観光に訪れたお客様に対して、いつでもどこでも迅速に観光情報の提供ができるよう、観光協会を中心として、各種団体と連携し、受け入れ体制の充実を図ります。

戦略② 「観光動線構築とPR」

【具体的施策の展開】

ア 観光施設と中心市街地の回遊性向上

行田市に点在する観光資源の回遊性の向上は、観光を産業のひとつとして形成していくために重要な視点です。

そのためには、各観光資源・施設間での連携を図り、観光マップや観光バス路線の見直しを行うとともに、歩行回遊ルートや自転車回遊ルート、観光バスルートなどの提案を行います。このように観光ルートを明確化し、立ち寄れる「おすすめの店」や土産店などを紹介することで、市役所から埼玉古墳群までを中心とした観光資源の回遊性向上を図ります(図表18参照)。

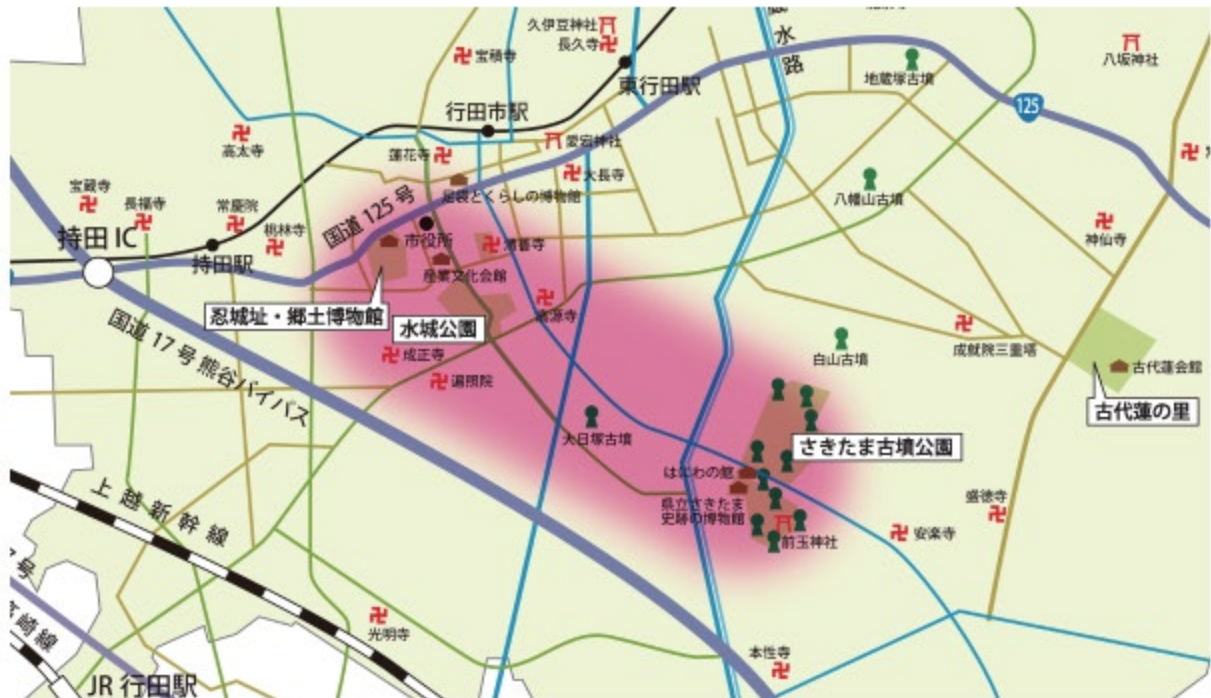
イ 広報活動、情報発信

広報活動では、多種多様な観光資源について観光客の関心やニーズに合った情報発信が求められます。この広報活動を強化するために、観光協会を中心に、市民団体、民間企業との連携を図り、全市的なキャンペーン等を行うことで広報活動を展開します。またインターネットなどを介してSNSやブログで情報発信するだけでなく、地域内コミュニティーや自治体同士の連携、ゆるキャラの活用を通して、広く情報の発信を図ります。

ウ 河川を利用した観光拠点のネットワーク化

行田市には、数多くの史跡や観光拠点が存在します。これらのほとんどが忍川・さきたま調節池に面して存在することから、これらの川に遊歩道(サイクリングロード)等を整備し、拠点間のネットワーク化を図ります。また、郊外の公園等の観光レンタサイクル拠点を充実させることで、観光客の誘致を図ります。

図表 18 んぎょうだ歴史ロマンの道を活用した回遊性向上の取り組み



戦略③ 「多様なコンテンツの提供」

【具体的施策の展開】

ア イベントなど交流機会の提供

SNSの利用に伴い、人と人との直接的なふれあいが少なくなっています。このことから、行田市では、観光を通して人と人が交流できる場の創出に努めます。さらに、観光交流の場にスポーツや各種イベント等を絡ませることで、新しい交流の場を創出します。また、ものづくりの体験等を通して、観光と文化を同時に実感できるような、歴史・文化・伝統の理解と経験の場を提供します。

イ 心を捉える物の提供

観光において観光客の心を捉えるためには「記憶に残る」だけでなく、「満足する」ことが大切です。そこで行田市らしい「食」「花」「水」「緑」等の提供によって、観光客のニーズを満たします。

観光の展望

